



山手線・新駅名と 自動運転装置

● 樋口 孝重

国労東日本本部 教宣部長



JR東日本は12月4日に、2020年春に暫定開業する山手線・田町駅～品川駅の新駅名を「高輪ゲートウェイ」と発表した。今年の6月に公募して6万4052件の応募があり、1位は「高輪」の8398件、2位が「芝浦」で4265件、3位が「芝浜」で3497件であった。「高輪ゲートウェイ」は130位で36件という下位にも拘らず、社内選考会で「品川再開発で国際交流拠点を目指す観点から、街全体の発展に寄与し、日本と世界をつなぐ結節点の願いを込めた」と説明している。

「12月7日には、ネット上で命名撤回を求める署名運動までスタートした。8日16時までに、賛同署名は約3500人に達しており、さらに増加の勢いを見せている。」というトップニュースを見た。

JR東日本の「行動指針 お客さま志向」では、「質の高いサービスを提供し、お客様のご期待に応えます」としている。公募をして、民意が反映されないのは如何なものかと首を傾げてしまう。

さらに気になったのは、「自動運転装置を年末年始に試験」という記事である。山手線で自動列車運転装置(ATO)の試験を年末年始の4日間、実施すると発表したことである。営業運転終了後の未明に、山手線全線

を走行し、蛇行など車両の制御に関するデータを集め、運転士がいなくても走行できる自動運転システムの開発に反映させるというものである。開発しているのは、電車が遅延した際、安全性を維持した上で速度を上げて後れを取り戻すなど、状況に応じた走行をするATOとしている。12月29,30日、来年1月5,6日の終電後に実施し、通常ダイヤと遅れを取りも戻す走行の2パターンで、山手線を2周するということである。山手線は、ホームドアの設置が進んでいる。現在は京浜東北線の工事も着手しているところである。11月14日に、代々木駅の山手線(内回りホーム)で、新宿駅を発車する際にドアに挟まった荷物が代々木駅に侵入する時に、ホームドアに衝撃して飛散した柵が利用者の右足に接触して負傷するという事故が発生している。新宿駅では、旅客の乗降が絶えず見通しが困難な状況であり、荷物が挟まったことを認識できなかったということである。「乗務員勤務制度の見直し」「保線部門のメンテナンス体制の最適化」「電気部門の変革2022について」など、矢継ぎ早に合理化施策が実施、さらに導入されようとしている。人間にしか出来ない事が有ることを忘れてはならないと、警笛を鳴らしたい。